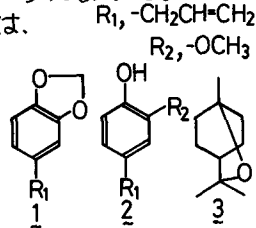


A 138 オーストラリア産植物 Tasmania xerophila および Tasmania lanceolata
 の葉の精油成分について
 日本女大家政 ○木村恵子 岩田伊平

目的 オーストラリアのニューサウスウェルズ州に自生する植物 Tasmania xerophila (TX) の葉は、完熟したバナナのような芳香をもつことから、食品香料新素材の開発や有効利用を目的として、その精油成分の同定を行っている。今回は、新たに、やや未熟なバナナの匂いがする Tasmania lanceolata (TI) の葉の精油成分を GC-MS によって分析し、TX の精油成分と比較することによって、バナナの匂いに寄与する化合物を追求した。

方法 TI の葉 118 g を細切してアセトンに 1 カ月浸けた。浸出液は吸引濾過し、濾液は減圧濃縮して、残留物から水蒸気蒸留法によって精油成分 0.25 g が得られた。精油成分は、GC および GC-MS によって分析した。GC は fused silica capillary WCOT column (Dexsil-300 GC, ϕ 0.25 mm \times 50 m) で、column 温度は、80~200°C, 3°C/min の昇温で行った。各化合物の検索は、質量分析計 JMS-DX300 付属のデータ処理システム JMA-3100 による NBS マス・スペクトル・ライブラリー・サーチによった。

結果 TX の精油成分はバナナの香りがしたが、TI の精油成分は、キクの花の匂いがした。演者らはすでに TX の主要香氣成分として、myristicin (1) および eugenol (2) を単離同定したが、TI にはこれら phenyl propane 類は含まれず、TI の主成分は 1,8-cineole (3), β -pinene, α -pinene, ocimene, d-limonene など、その他、cadinene 類などの M^+ 204 の sesugiterpene 類が、多数検出された。



1) 木村ら 日本農芸化学会59年度大会講演要旨集 p. 445